

## 1 目的

本校では、『つながり』を意識した実践を学校目標に掲げてきました。『つながり』は、児童と教職員、そして、保護者や地域との連携だけでなく、児童同士のつながり、上級生から下級生へのつながり、また、学習や行事等をつなぎ、児童個々の内面での成長などに関わる言葉です。さらに『つながり』を継続的に意識させることで、綿々と続く学校の文化・伝統として引き継がれるものと考えています。

## 2 内容

### (1) 児童個々の成長をつなぐ

#### ア 繰り返し学習

学力定着を図るために、読み・書き・計算は欠かせないもので、全教科の土台となります。週の計画に位置づけた朝学習（火曜：算数 木曜：国語）において、既習事項を確実に積み重ねるよう、児童の実態に合わせ、学年ごとに工夫して反復練習に力を注いでいます。また、各教科において、ICT 機器（タブレット）を活用した学習を取り入れたり、既習内容を活用して発展課題にも取り組んだりできるように、授業展開を工夫して取り組みました。

#### イ Q-U 研修会

名城大学の杉村秀充先生を招いた研修会では、実際に自分が担任している学級の Q-U シートを分析しました。データの見方や児童一人一人についての理解や対応方法、今後の学級経営の方向性や留意すべきことについて、一つ一つ丁寧にわかりやすく説明していただき、児童理解を深めるために多くのことを学ぶことができました。

### (2) 心や命をつなぐ

#### ア 人権教育

子どもの本専門店「メリーゴーランド」店主の増田 喜昭さんを講師に迎えて人権講演会を実施しました。人権にまつわる絵本の読み聞かせを行っていただきながら、児童に本との出会いから人生は広がり、目標や夢を叶えることができるなど、熱い思いを児童へ語っていただきました。

初めの低学年の部では、小さい頃よく遊ばれていた、コマ回しのパフォーマンスの披露をしていただきました。児童は、その技に驚き、一瞬の間に心を引きつけられていました。その後の本の読み聞かせ（紹介）でも、児童がずっと聞いていたいと思う本を次々と紹介していただきました。増田さんとのやりとりを、児童はとても楽しみながら真剣に聞いていました。

高学年の部では、10歳という年齢で、ある本との出会いでご自身が経験されたお話、この時期に出会った本は、何十年経っても覚えていること、本を読んでいるときは「自立」していること、読書は、想像力と創造力であることなど、短い時間の中で、これからの



増田喜昭さんの読み聞かせ

人生を歩んでいく上で、大切なことを、たくさん教えていただきました。

何よりも、増田さんの人柄が、児童の心をつかみ、引きつけていることがよくわかりました。講演会後も、児童一人一人の増田さんのこれまでの大切な人との出会い、大切な本との出会い、これから先、児童に身につけてほしい力など、たくさんのお話を聞かせていただきました。

## イ キャリア教育（職業講話）

12月、6年生を対象に地域の伝統産業を含むさまざまな仕事に従事している方を講師として7名お招きし、働くことのやりがいや楽しさ、誇り、苦労、喜び、大切にしていることなどについて講話をしていただきました。児童は、自分の興味・関心のある職業を2つまたは3つ選び、その講話を一語一語聞き漏らさないようにメモを取りながら、熱心に聞き入って、とても有意義な時間を過ごすことができました。この経験を通して児童の職業選択の幅が広がり、今の自分を見つめ直し、生き方について深く考える事ができるとてもよい機会となりました。



キャリア教育 「働く」を学ぶ

## ウ 水泳指導

スイミングスクールより講師を招き、プロの水泳指導を学びました。児童の泳力向上・教員の指導力向上に生かすことができました。また、持病がある児童がいる現状を踏まえて、水泳学習における安全指導の必要性を重視し、着衣泳をはじめとする安全に配慮した指導方法について学ぶ貴重な機会とすることができました。

## 3 評価

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教育活動に制限がある中で進めてきました。しかし、制限がある状況下で、「今、できること」を模索しながら、職員内で知恵を出し合い、工夫して教育活動を進めてきました。

学習面においては、ICT機器を活用し、学び合いを充実させるようにしました。そうすることで、それぞれが学んだことや感じ取ったことをタブレット端末で交流でき、自らの考えをさらに深めることができました。また、学びの変容を記録することに努め、個々の成長を確認することができました。これらの取組を通して、児童一人一人の成長へとつなげていくことができました。

心や命をつなぐ取組について、Q-Uの結果を受け二者懇談（教師と児童）を実施して児童理解に努めることで、交友関係の悩みを早期発見することができ、早期に対応することができました。また、地域人材を活用したキャリア教育（職業講話）や人権講演会の実施により、児童の心の成長だけでなく、それを支える教師の指導力を高めることにもつながりました。

## 4 課題

次年度も、安全で安心できる学校づくりを目指す中で、児童一人一人が多くの学びができるよう、教職員、保護者、そして地域と連携・協働しながら、児童の実態に合った教育活動を模索していきたいと考えます。